

寝屋川民報

議会版

発行
日本共産党
寝屋川市議員団
824-1181
(内線 2399)
FAX No. 824-7760
Email: jcpncc@cc-net.or.jp
No. 2107

太田 とおる
高柳2丁目49-2
TEL 826-1664

田中 ひさ子
国松町10-36
TEL 823-1714

寺本 とも子
豊里町38-1-105
TEL 829-8424

中林 かずえ
宝町4-33
TEL 839-2289

中谷 光夫
高宮2-19-5
TEL 823-5947

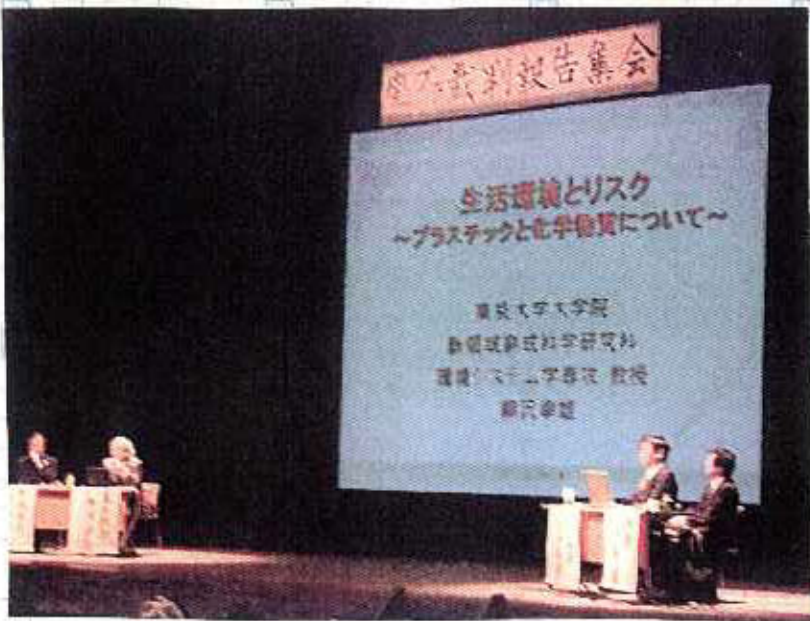
松尾 信次
下木田町12-6
TEL 821-7427

廃プラ裁判報告集会 650人の住民が参加

廃プラスチックは 再製品品化に適さない

再製品品化に適さない

廃プラ裁判報告集会
(主催・廃プラ処理に
よる公害から健康と環
境を守る会)が二十日
おこなわれ、雨天の中
六五〇人の市民が参加
しました。
牧隆三代表のあいさ
つの後、四人の方から
報告がありました。
民間施設と四市廃プラ
処理施設の建設と稼
働の中止をもとめる住
民訴訟の原告弁護士長
である村松昭夫氏が報
告。「裁判がはじまっ
た時は住民の健康に重
要な影響が出る危険性
があるとしていたが、



施設稼働後、現実に健
康被害が発生している
ことを裁判所の理解を
えることが重要」と述
べました。
東京大学教授の柳沢
幸雄氏は、「環境対策
はすべて良いこと」と
せず、「一つひとつ検

証が大事」とし、「リ
サイクルされた物質を
製品化するには純品が
必要。廃プラスチック
は混合物であり、役に
立つもののはつくれな
い」と述べ、再製品化
見直しの必要性を強調
しました。

また「膨大な種類の
化学物質の多くは未知
物質であり、犠牲者が
出なければ毒性がわか
らない。未知の物質の
危険性を認識すべき」
と述べました。

住民の健康調査 行政が実施すべき

岡山大学の津田敏秀
教授は、「疫学は原因
と結果の因果関係を明
らかにすること」とし、
「民間施設周辺の住民
の健康調査(疫学調査)
によって、施設の近く
に住む住民ほど、昼間
在宅している住民ほ
ど、眼やノド、皮膚な
どに様々な症状が出て
いること」を明らかに
し、「民間施設の稼働
と住民の健康障害の因
果関係を示している」
と述べました。

やるべき」と指摘しま
した。
医師の真鍋穰氏は、
民間施設周辺の住民の
診察をおこなった中で
の特徴を報告しまし
た。

真鍋氏も「大阪府と
寝屋川市が住民の健康
調査をきちんとおこな
うべき」と述べました。
その後、参加者から
質問・意見が出されま
した。

また「寝屋川市など
がこの健康調査が間違
いと言うのであれば、
行政自らが健康調査を

その中で、「住民に
シックハウス症候群と
同じ症状があらわれて
いること。揮発性有機
化合物が原因と考えら
れること、住民が自宅
から遠くへ移動すると
症状が改善し、戻ると
症状の出る人が多いこ
と、二オイを感じて症
状が出る人が多いこと
」などの特徴を明ら
かにしました。

住民から健康被害の
実態が明らかにされる
とともに、「廃プラ施
設の問題は、市民全体
の問題として運動を広
げていこう」との発言
がされるなど熱気にあ
る集会となりました。

